

平成 29 年 1 月 28 日 (土)

おかだくにいせき

## 岡田国遺跡現地説明会資料

調査場所 木津川市木津馬場南

調査期間 平成28年5月27日～平成29年2月下旬(予定)

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター  
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3  
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

## 1. はじめに

今回の発掘調査は、国道 163 号木津東バイパス事業に伴い国土交通省近畿地方整備局京都国道事務所の依頼を受け実施しました。岡田国遺跡では、昭和 52 年に発掘調査が行われ、奈良時代の溝や土坑が検出されましたが、小規模な調査であったため、遺跡の性格は不明でした。周辺には木津川の古代の港である泉津と推定されている上津遺跡、奈良時代の寺院である史跡神雄寺跡などの古代の遺跡があります。

## 2. 調査の概要

今回の調査では、奈良・平安時代を中心とする遺構が確認されました。

## (1) 奈良時代

掘立柱建物 7 棟、井戸 1 基、道路 2 条などを検出しました。

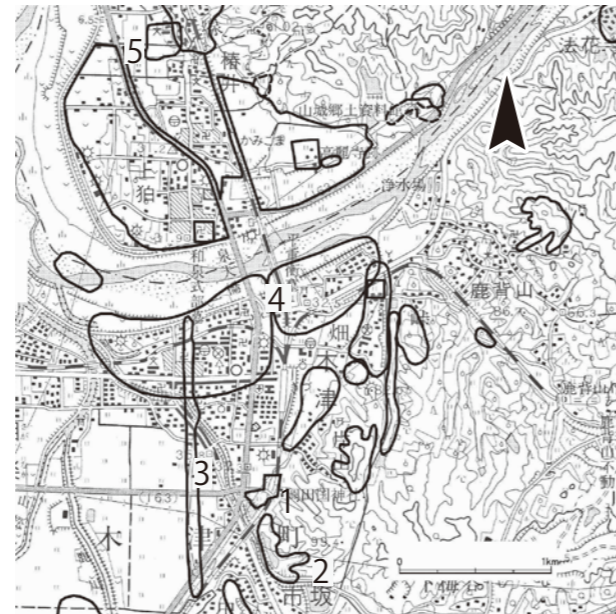
**建物 1** 南北 2 間 (4.2m)、東西 4 間 (8.6m) の掘立柱建物です。建物の内側に柱穴があることから、間仕切りがあったか、床張りの建物と考えられます。

**建物 2** 南北 3 間 (5.8m)、東西 2 間 (4.2m) の掘立柱建物で、南側に庇がつきます。庇の南側では、建物 2・3 を取り囲む雨落溝を検出しました。

**建物 3** 南北 3 間 (5.8m)、東西 2 間 (3.6m) の掘立柱建物で、南側に庇がつきます。

**建物 4** 南北 2 間 (3.2m)、東西 2 間 (3.6m) の掘立柱建物です。南側で雨落溝を検出しました。

**建物 5** 南北 4 間 (7.5m) 以上、東西 2 間 (3.8m) の掘立柱建物です。柱の掘形内に炭が



第1図 調査地位置及び周辺主要遺跡分布図

1. 岡田国遺跡 2. 馬場南遺跡（史跡神雄寺跡）  
3. 作り道遺跡 4. 上津遺跡 5. 上狛北遺跡

多く含まれていました。

**建物 6** 南北 3 間 (5.4m)、東西 1 間 (3.6m) の掘立柱建物です。柱跡の埋土に炭が多く混っていました。炭の混入の状況から、建物 6 が火災にあった後に建物 5 が建てられたと考えられます。

**建物 7** 調査区北西側で検出した掘立柱建物です。建物は東西 3 間以上の規模で、北側が調査区外であるため全体の規模は不明です。建物 7 の周りには 3 条の柵が確認されました。

**井戸 SE152** 平面形が円形で、井戸枠のない素掘りの井戸と考えられます。「越後」と書かれた墨書土器などが出土しました。出土した土器から奈良時代の中頃の井戸であると考えられます。

**道路 1** 道路側溝と考えられる並行する南北

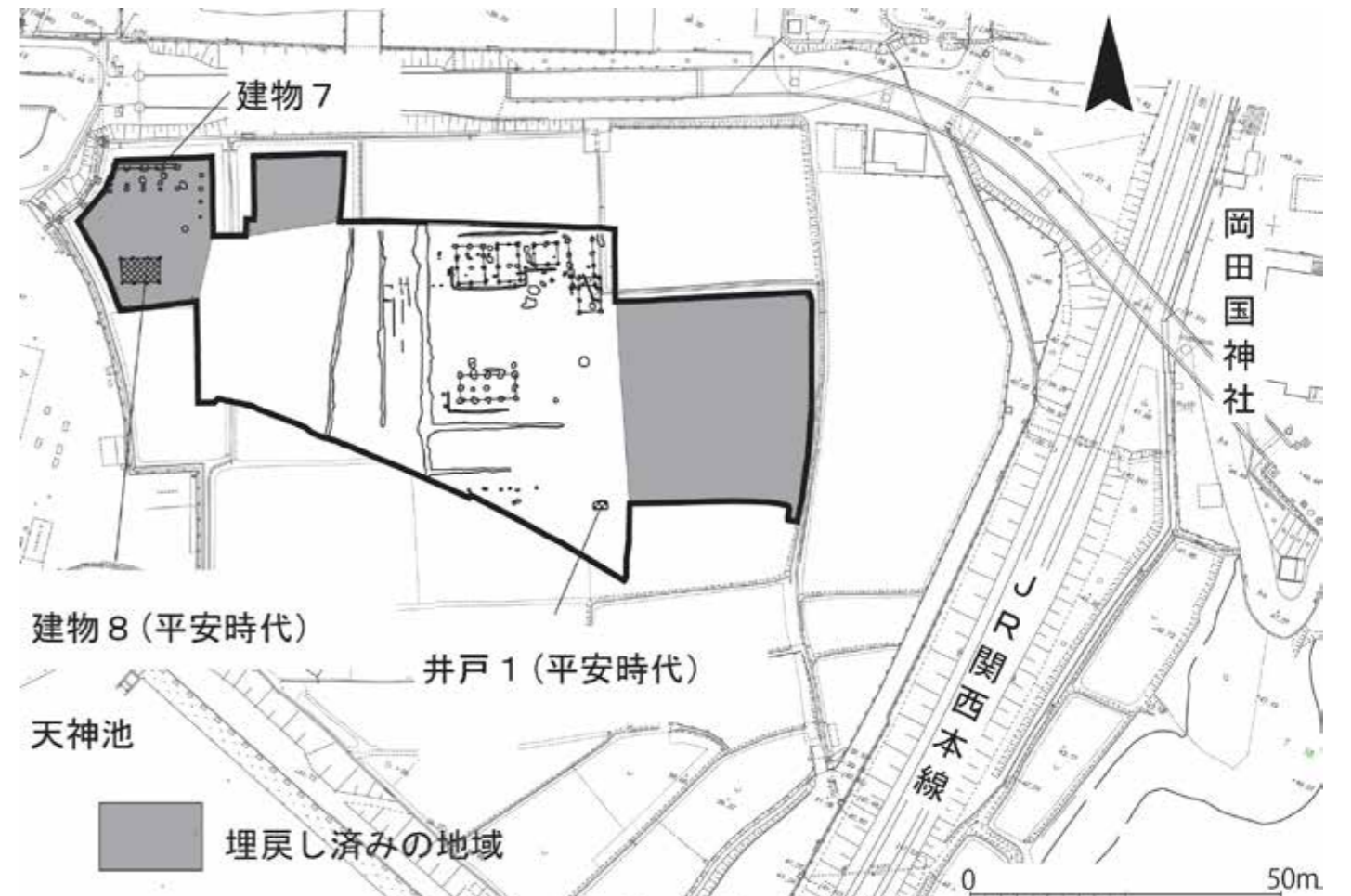
方向の溝 2 条 (SD160, SD190) を検出しました。溝 SD160 は検出長約 41m、幅約 2m、深さ約 0.5m、溝 SD190 は検出長約 31m、幅約 0.9m、深さ約 0.3m の規模です。2 条の溝の芯々の距離は 6.7m で、路面にあたる部分には、荷車などの轍と考えられる並行する細い溝が複数残っていました。また、溝 SD160 からは祭祀に用いられる墨書人面土器が出土しました。

**道路 2** 道路 1 に直交する道路です。道路側溝と考えられる並行する東西方向の溝 2 条 (SD165, SD200) を検出しました。溝 SD165 は検出長約 21m、幅約 1m、深さ約 0.3m、溝 SD200 は検出長約 13m、幅約 0.8m、深さ約 0.1m の規模です。2 条の溝の芯々の距離は 7m です。溝 SD165・SD200 は西側で SD160 に合流します。

溝からは奈良時代の中頃の遺物が出土しています。その他に調査地内からは瓦、埴、円面硯、刀子、和同開珎などが出土しました。

## (2) 平安時代

南北 1 間、東西 3 間の小規模な建物 8 と、井



第2図 岡田国遺跡調査範囲

\* 奈良時代の主要遺構については、裏面に拡大図を掲載しています。

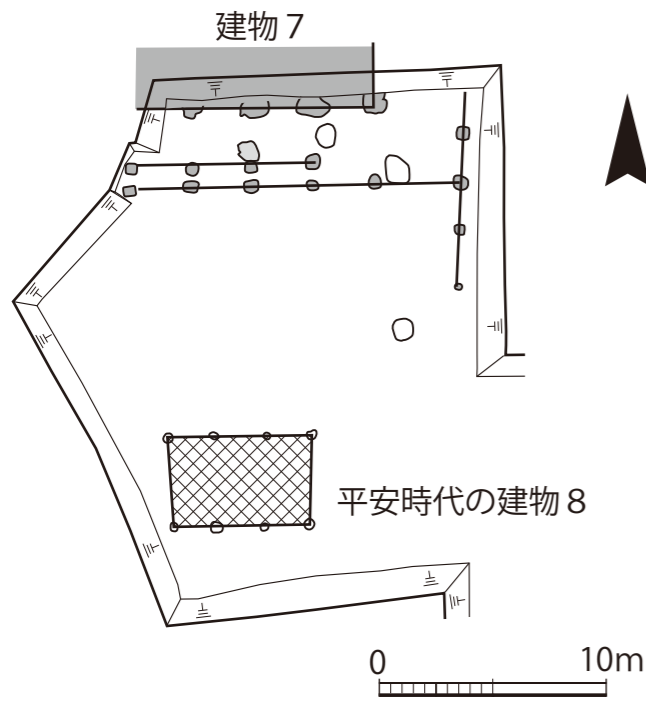
戸 1 を検出しました。出土遺物から平安時代前期の遺構と考えられます。

## 3. まとめ

今回の調査では、奈良時代の中頃の東西・南北方向の直線道路によって区画された場所に、掘立柱建物が建ち並んでいる状況が確認できました。

奈良時代中頃には、調査地の北東約 5km の位置に恭仁宮 (740～744 年) が造営されました。『続日本紀』には、恭仁宮とともに恭仁京についての記載もあります。今回検出した道路は、都城に基盤目状に設置された道路である条坊と類似していることから、恭仁京に関するものである可能性があります。

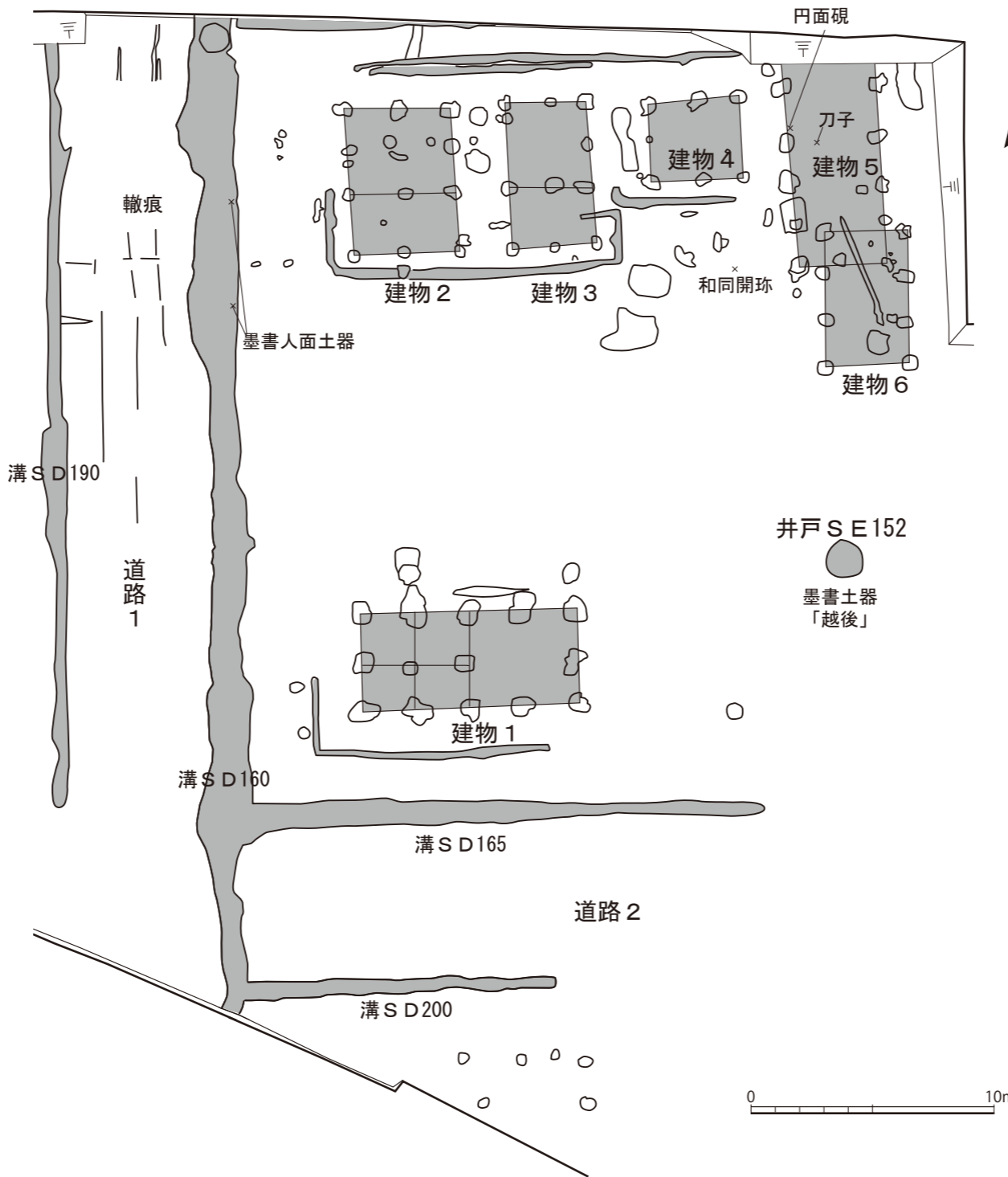
1973 年に歴史地理学者の足利健亮氏が京城の復元案を提示されて以来、考古学的な確証は得られていません。また、恭仁京城の形態や規模、短期間にどこまで完成していたかなどについて諸説がある中、今回の調査は恭仁京を考えていくうえで貴重な事例を提供したといえます。



第3図 調査区北西部の遺構

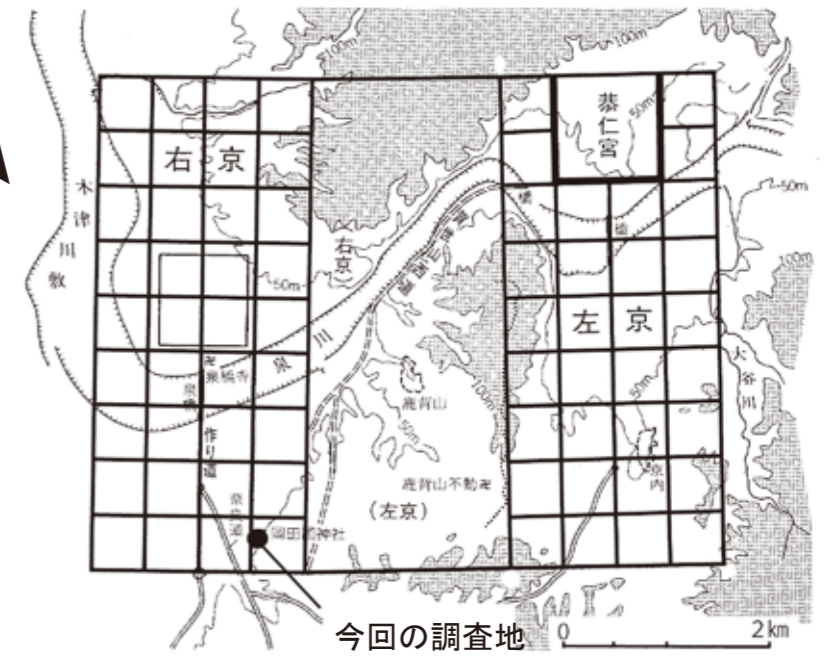


写真1 道路1 (北より)



第4図 岡田国遺跡の奈良時代の主要な遺構

- ・掘立柱建物 地面に直接穴を掘り、柱を立てて造った建物。
- ・間けん 柱と柱の間。
- ・轍わだち 荷車や牛車などの車輪が通った痕跡。
- ・埴せん 床などに敷いた古代のレンガ。
- ・刀子とうす 木などを削ったナイフ。
- ・円面硯えんめんけん 陶器でできた円形の硯。
- ・恭仁京くにきょう 聖武天皇が造営した奈良時代の都 (740～744年) です。京の中心である恭仁宮は、発掘調査によってその規模などが明らかになっていますが、京城については、明確な遺構は発見されていません。



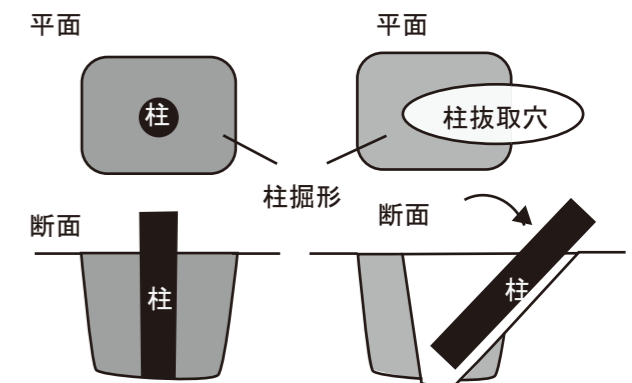
第5図 恭仁京復元図  
(足利健亮案：『山城町史』を改変)



写真3 墨書土器「越後」



写真2 建物2～6 (東より)



第6図 掘立柱模式図